

梅苑会報

発行所 福島市森合町5-72
 福島高等学校同窓会
 電話 (024) 535-2391
 直通 (024) 536-9511
 振替口座 仙台 23948
 発行人 今井吉之
 発行日 平成22年3月1日
 印刷 株式会社日進堂印刷所

(題字は故若林名誉会長)



ごあいさつ

同窓会会長 今井吉之 (高校第5回卒)

平成21年11月27日開催の同窓会総会が無事、盛会裡に終了でき、私も会長職を二期四年間、勤めることができました。これも同窓会役員および会員の皆様、校長先生はじめ母校教職員の方々のご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第であります。

実は、私は今回の総会で会長職を辞する覚悟でありましたが、計らずも同窓会の皆様方から再選の動議があり、更に会長職を継続することになりました。何卒、至らぬ会長であります、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

昨年度の同窓会行事をご報告申し上げます。

平成21年3月1日、福島高校卒業式が挙行され、同窓会々長として祝辞を述べる光栄に浴しました。卒業生の大学進学の結果は県内一位で大変優秀でした。同年4月8日には入学式が挙

行され、優秀な新入生、特に女子生徒が多数入学しました。女子の教員も増加し、大変、華やかな入学式典でした。

因みに福島高校には、昭和26年4月に5名、昭和27年9名、同28年7名、同29年6名の女子生徒が入学した実績があります。

私が入学した昭和25年当時の女性教員は音楽の三浦トミ子先生お一人でした。三浦先生は福高合唱団を指導して、全国高校合唱コンクールで優秀な成績をおさめられたことは周知のとおりであります。

同年5月15日、関東梅苑会定期総会が東京グリーンパレスで開催され、新井田校長先生と共に出席しました。新しい会長に小松恭三さん(福高14回卒)が選任されました。恩師の大越勝忠先生(福中47回卒)安原滋先生(福高3回卒)のトークショーがあり、大先輩の佐藤庄市郎先生(元最高裁判事、福中39回卒)

砂子田隆先生(元消防庁長官、福中44回卒)もお元氣に出席されました。さらに福高58回卒、61回卒の女子同窓生も数名参加され大盛会でした。

同年9月17日には、みやぎ梅苑会定期総会がハーネス仙台で開催され、新井田校長先生と出席しました。役員改選が行われ、歌川和夫さん(福高17回卒)が新会長に選任されました。前会長の今野健一君は私と同期で長年、会長を勤められ本当にご苦勞様でした。女子の同窓会委員も数名元氣に出席されました。

同年11月27日、福高同窓会総会を、福島グリーンパレスで開催し、大勢の会員の皆様のご参加を頂き盛大に開催できました。ことに厚く御礼申し上げます。記念講演を千葉大学学長である齋藤康先生(福高13回卒)に「私の学生の頃の大学、今の大学」と題して行なって頂きました。先生の福高時代、大学時代、大学

教授時代を振り返ってお話を頂き、大変感銘をうけました。有り難うございました。

今後の同窓会の活動について、更なる発展と母校や後輩のために役立つような活動をして参りたいと考えております。卒業年度毎の同期会、職場や地域毎の同窓会支部の結成、拡充を図りたいと考えております。役員(副会長、常任理事、理事、幹事)についても、拡充、若返りを図りたいと考えております。何卒、自選他選をお申し出下さいますようお願い申し上げます。

私も微力ながら同窓会の組織と事業の拡大を図って参りたいと考えておりますので、同窓会役員および会員の皆様には、同窓会の活動に尚一層のご協力、ご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

平成二十一年度

福高同窓会総会

議事

○同窓会事業について

①平成二十一年度事業報告

②平成二十一年度一般会計決算・母校後援会費決算

③会計監査報告

④平成二十二年事業計画(案)

⑤平成二十二年一般会計予算(案)・母校後援会会計予算(案)



自主性を育てる校風

福島高等学校長 新井田 大

同窓会員の皆様には日頃母校の為に支援と協力を賜り誠にありがとうございます。創立百一年目を迎えた昨年四月二十五日、福島市音楽堂大ホールに於いて福島高校合唱団在京OB会、コール・マルシェナールによる初の「ふるさと」公演が行われました。当日同じ時間帯でPTA総会があり、往年の力強い合唱をお聴きすることは叶いませんでしたが、ホールを埋めた同窓生はじめ多くの方々に大きな感動を与え、初の「ふるさと」公演は大成功であったとお聞きしました。現役の合唱団も参加させて頂き、年代を超えて共に歌うことの喜びと多くの刺激を与えて頂きました。お陰様で合唱団は今夏宮崎県で開催される全国高等学校総合文化祭に県代表として参加できることになりました。大きく飛躍する一つの契機になるものと期待しています。

今年度は同窓生による在校生を対象とした講演会を三回開催することができました。高校二十四回卒業東京大学医学部研究科教授の大橋靖雄氏、高校第二十六回卒業朝日新聞編集委員の星浩氏、高校第三十五回卒業宇都宮航空研究開発機構助教授の春山純一氏によるものです。現在各分野の第一線で活躍されている同窓生諸氏による講演は、生徒が将来進むべき道を考える上で大変有意義なものでした。講演会後の座談会では、先輩と積極的な意見交換ができた大変良かったと好評でした。同窓生諸氏には貴重な時間を割いて頂き誠にありがとうございました。

本校は自由闊達な校風の中で、「梅苑の教え」を実現する志の高い大きな人材を育てることが求められています。そのために大切なことは生徒が「自主自律」「自覚自習」を実現し、自らの意志で諸活動が展開できるようにしなければなりません。日々の活動もここに主眼を置いています。大学生になっても自らの意志で行動できない学生が増えていると言われています。このような状況であれば益々福島高校が伝統として築いてきた校風は大きな価値を持つてきます。

生徒は今年度も部活動等の自主活動で多くの成果を残してくれました。バスケットボール部を始め多くの運動部、文化部が全国大会への出場を果たしました。野球部は春の選抜大会二十一世紀枠の県代表に推薦され、夢の実現へ一歩踏み出しましたがプロダクション推薦を勝ち取ることはできませんでした。「いつか必ず」との思いを持ち、部員は練習に励んでいます。今年度三年目を迎えた文部科学省から指定を受け取り組んでいるスーパーサイエンスハイスクール事業では、各県を代表する高校が集まる全国研究大会で、「橋の構造力学の研究」について発表した本校生が準優勝に相当する賞を得ました。生徒が自主的に研究を進め成果を上げています。

果を上げています。福島高校のやり方が各方面から注目を集めました。二十年度卒業生の進学状況は、一言で言えば大いに健闘したと言えます。東北大学は医学部を含め三十六名、福島大学は二十名、東京大学は四名等、国立大学は百十八名合格しています。県立医科大学には九名合格しました。現役九名は過去十年ありませんでした。私大にも早稲田、中央は各二十名を越え、総数で二百二十名の合格者を出しています。現役合格者の多くが勉学と部活動の両立を図っていることが本校の大きな特徴です。しっかりとした優れた人材を育てて行くためにもこれは大切にしていかなければなりません。ご支援の程宜しくお願い致します。



記念講演

「私の学生の頃の大学、今の大学」

千葉大学長 齋藤 康氏(高校十三回生)



総会に先立ち、今年度は齋藤康氏による記念講演が行われた。

講演は、福島市松川町に住んでいた幼少期の思い出に始まり、本校入学時には、質実剛健の校風に触れ、地元の名門校に入った誇りを持って過ごされた記憶を吐露された。また、学習成績の公表という権威ある格付けに戦々恐々とした当時の心境を語られたほか、栗原校長、明珍昭次先生、石川義光先生など、当時の恩師との思い出について懐しく振り返られた。

平成七年に千葉大学医学部内科学第二講座教授に就任した。平成十七年からは細胞治療学教授兼任のもと、千葉大学医学部附属病院院長を務め、十九年に千葉大学理事・副学長、二十年四月から千葉大学長に就任し、現在にいたっておられる。専門分野は、動脈硬化、

これまでのご自身の研究について



「母校（福島県立福島中学校）に寄す」

鈴木典夫氏（中学第四十四回卒）の詩文

鈴木典夫氏は現在、みやぎ梅苑会の会員として、会の発展に熱心なる支援のもと尽力なさっている方である。氏は昭和二十年三月に本校を卒業された。この度、氏より「母校（福島県立福島中学校）に寄す」と題した詩文を寄稿いただいた。この詩文は、卒業翌年の昭和二十一年二月につくられた詩文である。卒業する時の清々しい思いと、将来への希望を胸に刻む想いが述べられ、時を経て変わることのない強い想いとして我々同窓生の胸を打つ詩文である。氏の略歴とともに合わせ、ここに紹介する。

鈴木典夫氏（略歴）

○福島県立福島中学校

第四十四回卒（昭和二十年三月）

○仙台第二高等学校入学

（昭和二十年七月）

○東北大学医学部

第一内科助教授

○東北大学付属医療短大 教授

○医療法人社団仁明会 理事

「母校（福島県立福島中学校）に寄す」（一九四六・二・五作）

- 一 霞たばしる信夫野の学びの窓ゆ遙なる
吾妻の霊峯雪負ひて色白銀と映ゆる時
誰が呼びし名ぞ春告（梅）の若芽の成育日日絶えず
- 二 天運与せてうつせみの世は混濁となりぬとも
心字の池に散る花のゆかしき伝統残しつつ
至誠の城は永久に大磐石ケ根と動くまじ
- 三 水澄み流豊かなる阿武隈川の畔辺に
仰ぐ北斗ぞ弥高き師の御恵と友垣の
厚き友情に涙する今宵嬉しき追想かも
- 四 黄金花咲く陸奥に希望と意気と感激の
若き力の溢るれば今ぞ萌え立つ濃緑の
名も美わしの信夫草衰へたりと他人言へど
我福中の明日祝がむ我福中の明日祝がむ



母校だより

朝日新聞 福高サミット

星 浩氏（高校二十六回卒）講演

「私の見た日本と世界」



平成二十一年七月六日、本校第一体育館にて「朝日新聞 福高サミット」が開催された。このサミットは、本校生徒の進路選択の一助になるようにと、本校と朝日新聞

福島総局、県朝日会との協力によって実現した企画である。本サミットにおいて、本校卒業生であり、現在は朝日新聞編集委員を務める星浩氏の講演会が行われた。

星氏の本校での講演は五年ぶり二回目となる。総選挙を近く控え、多忙な中に来校しての講演会であった。

星氏は講演において、東西冷戦時代を経て繁栄していった日本は、これから平和に貢献できる仕事をしたいかなければ世界から尊敬されないと述べた上で、冷戦が終わって二十年が経った今の時代は、ニューヨークの同時多発テロをはじめ、世界中で予期しない事が起こっていること、ITの発達によって人々の生活が大きく変わったことに言及した。さらに、そうした社会においてどのように学び、職業を選択していくべきかについて、現代はさまざまな進路と人生が可能な「複線の時代」であり、目指す学校や職業を決めることは大切であるが、価値観を決めつけることなく、自分の可能性を積極的に試してほしいと語った。そのために伝記など、様々な人の本を読み、様々な道を知ってほしいと生徒たちに訴えた。

星氏は最後に、世界に役立つために勉強を重ね、進路を選んでほしいと述べ、講演を締めくくった。生徒たちは、先輩である星氏の講演に最後まで熱心に耳を傾けていた。

講演後は、会場で星氏と生徒との質疑応答の場が設けられたほか、応接室において星氏を囲んでの、在校生との座談会が開かれた。



「寄贈図書」についてのお願い

「個人の蔵書を寄贈したい」との希望がある場合は、本校「梅苑図書館」で対応いたします。蔵書受入原則は以下の通りです。
○卒業生本人が著された書籍（共著）——登録する
○研究・論文等に卒業生の名前がある書籍——登録する
○図書購入のための現金は、選書を一任させていただければ頂戴する。

○その他については、蔵書内容を審議し、書架に置くか、こちらで処理するか（文化祭での「古本市」販売、または廃棄を含む）一任するを了解いただいた上で受け入れる。
以上の原則に基づいて寄贈図書を受け入れたく存じますので、よろしく願います。
福島高校 梅苑図書館

部活動成績

運動部

テニス部

福島県高校体育大会

男子 団体・シングルス・

ダブルス 出場

女子 団体・シングルス・

ダブルス 出場

ソフトテニス部

男子

東北高等学校春季選手権大会 出場

ハイスchoolジャパンカップ県大会

ベスト8 ベスト16

福島県高等学校体育大会

団体 ベスト8

福島県高等学校新人体育大会

団体 ベスト8

福島県高等学校ソフトテニス

インドア選手権大会

団体 ベスト8

個人 3位・ベスト8

東北高等学校インドア

ソフトテニス大会出場

バレーボール部

女子 福島県高等学校新人

体育大会バレーボール競技

ベスト16

ソフトボール部

男子

100m平泳ぎ 1位・3位

福島県高等学校春季選抜

ソフトボール大会 出場

福島県高等学校体育大会出場

福島県総合体育大会 出場

福島県高校新人体育大会出場

女子

福島県高等学校体育大会出場

春季東北地区高等学校野球

福島県大会 ベスト8

全国高等学校野球選手権記念

福島大会 ベスト16

秋季東北地区高等学校野球

福島県大会 ベスト8

選抜高等学校野球大会「21世紀枠」

福島県推薦校(2年度)

水泳部

インターハイ県大会

200m自由形 3位

200m自由形 1位

400m自由形 1位

100m平泳ぎ 2位・3位

200m平泳ぎ 1位・3位

400mメドレーリレー 3位

インターハイ東北大会

200m自由形 4位

400m自由形 4位

インターハイ全国大会出場

200m平泳ぎ

200m・400m自由形

福島県総合体育大会

100m平泳ぎ 1位・3位

200m平泳ぎ 2位・3位

400m自由形 1位

福島県新人大会

200m自由形 3位

100m平泳ぎ 1位・3位

200m平泳ぎ 1位

200m自由形 1位

400m自由形 1位

北新人大会

200m平泳ぎ 4位

200m自由形 3位

400m自由形 3位

新潟国体出場

400m自由形

山岳部

インターハイ県大会 優秀バーティ

福島高校A 福島高校B

陸上競技

県高校総体 200m 6位

卓球部

男子 東北高校総体

シングルス ダブルス 出場

男子 新人戦県大会

シングルス ベスト16

女子 新人戦県大会

シングルス ベスト16

ゴルフ部

春季県中高ゴルフ選手権大会 9位

東北高等学校ゴルフ選手権大会出場

福島県総合体育大会ゴルフ競技出場

全国高校ゴルフ選手権東北大会

個人の部 出場

福島県ジュニアゴルフ大会 出場

秋季福島県高等学校

ゴルフ選手権大会 5位

全国高等学校ゴルフ選手権

秋季東北大会 出場

ハンドボール部

福島県春季ハンドボール

選手権大会 ベスト16

福島県高等学校体育大会 ベスト16

福島県総合体育大会出場

福島県高等学校新人体育大会

第4位

東北選抜大会ハンドボール競技

県代表決定戦 第4位

ラグビー部

福島県総合体育大会県大会

ベスト8

福島県高校体育大会出場

福島県高等学校新人体育大会

ベスト8

弓道部

第55回福島県高等学校体育大会

弓道競技 出場(男子団体)

第62回福島県総合体育大会

弓道競技 女子個人3位

柔道部

県高等学校体育大会 男子個人

66kg級・60kg級 出場

剣道部

県高等学校体育大会

男子団体・男子個人 出場

県選抜大会 男子団体 出場

バスケットボール部

男子

福島県高等学校体育大会 優勝

東北高等学校男女バスケット

ボール選手権大会出場

全国高等学校総合体育大会出場

福島県総合体育大会 準優勝

福島県選抜高等学校

バスケットボール選手権大会 3位

福島県高等学校新人体育大会 優勝

東北高校男女新人

バスケットボール大会出場

女子

福島県高等学校体育大会出場

福島県総合体育大会出場

福島県高等学校新人体育大会出場



アーチェリー部

全国高等学校総合体育大会

「2009近畿まほろば総体」

男子個人戦出場

二十一年度 卒業生表彰者

○「齋藤英語賞」

伊藤勇斗

「齋藤英語賞」は、本校の

卒業生で文学博士であった故

齋藤勇氏によって、本校の英

語学習奨励のために設けられ

た賞である。英語学習に積極

的に取り組み、その成績優秀

な者に対して贈られる。

平成二十一年度

優秀賞

全国高文連紙面審査

全国高校新聞コンクール

・SSH部 服部奈都季

岡崎 仁美

(実績)

スーパースイエンスハイス

クール生徒研究発表会「科学

技術振興機構理事長賞」

「加藤文化芸術賞」は、本

校卒業生である故加藤徳衛

(俳号東人)氏から寄せられ

た基金により設けられた。優

れた経済人であるばかりでな

く、俳句俳画を嗜み、美術・

古代史にも造詣の深い氏のご

遺志にそって文化芸術活動振

興のために創設された。各年

度中、文化芸術の分野におい

て積極的に活動し、学習・研

究・発表等において他の模範

となる顕著な成績を収めた者

に贈られる。

○「加藤文化芸術賞」

・梅章委員会 太田しのの

武田 有未

赤間亜理沙

(実績)

平成十九年度

全国高文連紙面審査

最優秀賞

全国高校新聞コンクール

優秀賞

平成二十年度

全国高文連紙面審査

優秀賞

全国高校新聞コンクール

優秀賞

文化部・特殊部

〔特殊部・委員会〕

●慶援団チアリーダー部

全国高総文祭チアリーダー部・

バントワリング部門参加・

開会式パレードに県代表チーム

として参加、

高文連チアリーダー・バント

ワリング部門第1回発表会 参加

●梅章

第33回全国高等学校総合文化祭

東北高等学校選手権大会

男子団体戦・個人戦出場

福島県高等学校体育大会

男子個人 第2位

●サッカー部

全国高等学校サッカー選手権

福島県一次大会 出場

●バドミントン部

福島県高等学校体育大会

学校対抗戦シングルス出場

ダブルス ベスト16

福島県総合体育大会

シングルス・ダブルス 出場

福島県高等学校新人体育大会

学校対抗戦 ベスト16

女子

福島県高等学校体育大会

ダブルス 出場

新聞部門 年間紙面審査

優秀賞

第39回全国高校新聞コンクール

優秀賞

〔文化部〕

●文芸部

〔第7回福島県文芸コンクール〕

詩部門 最優秀賞

短歌部門 優秀賞

短歌部門 優良賞

俳句部門 優良賞

〔第24回全国高等学校文芸コンクール〕

詩部門 優良賞

〔第34回全国高等学校総合文化祭

文芸部門(於「宮崎県」に推薦)

●美術部

福島県総合美術展出品

福島県美術協会展出品

県合唱コンクール

県声楽アンサンブルコンテスト

銅賞

●合唱部

●写真部

第33回全国高等学校総合文化祭

写真部門(於「三重県」)に出品

第28回福島県高等学校総合文化

祭写真展 最優秀賞

(平成22年度全国高等学校

総合文化祭写真部門に推薦)

●将棋部

全国高等学校将棋選手権大会

南・東北大会 決勝進出

第4回エコノミクス甲子園出場

アタック25高校生大会全国大会進出

は苦い。」と言って涙ぐんでいたのです。就職先の会社に。今度も安くない生徒よろしく。と。可愛い教え子が物扱い受けたのが悔しかったのでしょ。」と當時を思い起こす。

その後、新藤監督の近代映画協会でシナリオを担当、ドキュメンタリー作品を手掛ける。千葉さんの作品を見ると、一貫して人間の限らない愛や命の尊厳がテーマだ。

現在日本映画学校の副校長として後進の指導にもあたっているが、「まだ自分で撮りたい作品がある」と目を輝かす千葉さんだ。

『剣岳 点の記』の脚本・プロデューサー。 高校時代から映画少年

高校34回 菊池淳夫さん

●妥協のない山岳映像

昨年公開された『剣岳 点の記』(東映配給)は、ブルーリボン賞作品賞、監督賞、日本アカデミー賞の各部門で優秀賞に選ばれ(最優秀賞は3月5日発表)だ。

共同脚本とプロデューサーを務めた菊池淳夫さん(東映・製作部)は、高校34回卒だ。

映画の舞台は明治40年、陸軍の測量部が当時前人未踏だった剣岳に登る話(新田次郎原作)。



この映画を見ると、現代ではCG(コンピュータ・グラフィックス)で幾らでも合成画像はできるのに、山岳シーンはすべて3年かけて現地撮影。体感温度氷点下40度、標高3千メートルのその場で撮影したことにある。しかも撮影時は明治時代の服装・装備(木綿の綿入れと登山靴はワラジ)、雪山、雪崩のシーンもある。

●高校時代は水泳部

菊池さんは、森合小、四中を経

て福高に。高校時代は水泳部に所属、立教大学文学部時代は、8mフィルムで自主映画を撮っていた映画青年だった。

そして卒業後東映に入社、数々の映画に携わり現在は東映東京撮影所製作部長。

「木村監督は、黒澤映画の撮影を務めた妥協を許さない名ギヤメラマン。ある日、木村さんから、これを撮りたい」と脚本(初稿)を見せられたのです。本物の映画作り、ぜひ参加させてほしいと仲間に加わりました」

当初は、東映社員として参加したわけではない。「有給休暇をとって、映画屋として」だったという。四季折々の、ひれ伏すほどの美しくも厳しい大自然、そこに挑む命をかけた測量隊の物語なのだが、映画を作った人たちはまた同じような気持ちだった。

「3年間で私が山にいたのが270日でした。しかも重い撮影機材を持って、それにしても浅野忠信さん、香川照彦さん、松田龍平さん、仲村トオル、夏八木薫さん、今日日本を代表する俳優さんが厳しい大自然の中の命がけの撮影、ぜひ見てください」

映画パンフには「この映画もまた、仕事に誇りを持って真摯に取

り組んだ人々の魂の記録である」と記してある。

現在は一部名画座での上映とDVDがあるので、ぜひ、みてほしい映画だ。

●いつか故郷を舞台に映画を

とくろで菊池さんは、なぜ映画人となったのか?

「小学校にみたブルースリーのアクション映画に魅了され、中学時代は『タクシードライバー』を映画館でみて、上映中もう一回みたのです。あつ、映画好きを自分で自覚しました。将来は映画を作りた!と目標は明確に決まりました。高校時代は小遣いのために映画館によく行きました。東宝、日活、大映、松竹、東映、日劇、駅前国際、あの頃福島にあった映画館も数少なく無くなつてさびしいですね」

この『剣岳 点の記』の撮影が終わった年の秋、帰郷して吾妻山に登った。

「吾妻山から見下ろすと、福島市内の真ん中にボツンと信夫山。それまで育った美しい福島を改めて意識しました。いつか福島を舞台に映画を作りたいですね」

5月14日の関東梅苑会・同期会には菊池さんのミニ講演も予定している。

関東梅苑会公式サイト紹介

<http://www.kantobaienka.ne.jp>

本部梅苑会情報・関東梅苑会最新ニュースのほか、同期会情報、同窓生投稿原稿、ゴルフ大会開催情報と成績、コーラス部リサイタル情報、「われらが野球部情報!」などが掲載されています。「梅苑会」の検索でトップに表示されます。これまでの関東地区OB紹介は、元西武ライオンズ鈴木哲さん、新井薬師寺・根本智英さん、千葉大学長・齋藤康さん、朝日新聞・星浩さんが紹介されています。またこの「梅苑会報」もホームページで全ページを閲覧可能になりました。

(HP担当・高校31回・島田久)

編集後記

今年の関東地区の会員紹介は映画界で活躍する2人に登場いただいた。千葉さんは、まだマザー・テレサが日本では知られる以前、直接アボナシでインドに会いに行った。菊池さんの『剣岳 点の記』も、山岳撮影270日。この活動屋さんのエネルギー、魂——梅苑会のエネルギーに。

会報・取材担当・油井富雄(高校24回)

みやぎ梅苑会

新会長に歌川和夫氏(高17回)を選任 平成21年度みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

みやぎ梅苑会は、9月17日(木)仙台市青葉区本町・ハーネル仙台で平成21年度定時総会・懇親会を今井音之助同窓会会長・新井田大校長・島田久関東梅苑会幹事(高31回)らに来賓をお迎えして開催しました。

会は、橋本俊一幹事(高21回)の司会で開会し、物故会員へ黙祷を捧げた後、今野健一会長(高5回)、来賓方々の挨拶を受けました。

今井会長は、同窓会110周年記念行事への協力に対する謝辞を含めた挨拶がありました。仁井田校長からは、特に平成19年度から文部科学省の指定を受けているSSH(理数系教育の充実を図る組織)で、今年8月同組織の理事長賞を受賞したことなど、生徒の文武両面での活動状況の報告を含む挨拶がありました。

総会では、20年度の事業・会計

報告・監査報告並びに、21年度の事業計画(案)・予算(案)を原案通り承認された後、役員改選の件が審議され、

会長 歌川和夫(高17回)(新)

副会長 森川利夫(高6回)(留)

佐藤 隆(高15回)(新)

小林直人(高19回)(留)

関口哲夫(高20回)(留)

事務局長 羽田 登(高9回)(留)

落合敏伸(高19回)(留)

神長一弘(高22回)(新)

監事 管藤忠一(高16回)(留)

高原 透(高39回)(留)

さらに、顧問・理事・学年幹事が選出されました。

今野前会長は、4期、8年間の在任期間を振り返り、「母校が野球の秋季東北大会に出場し、元気に戦った姿」ことなど思い出を披露しながら退任の挨拶をしました。歌川新会長は、「徽章に賭けた熱意を思い出させられた。この

熱い想いを引き継ぎたい」と抱負と協力を訴えた。

懇親会では、橋本幹事の司会で進行し、森川副会長の開会挨拶、渡辺富也顧問(中43回)の乾杯で始まり、初めに島田久関東梅苑会幹事から関東梅苑会のホームページの企画と活用の報告があり、母校のHPをもリンクしたネット作りに関き入りました。国分秀男氏(高14回)は「昨年の同窓会総会での基調講演、菅野剛広氏(高34回)は「クロバチアでのハンクライダー大会の思い出、西村晃一氏(高28回)は「9月母校と福島東高が合同で松島の観光研究」、関剛史氏(高39回)は「セントラル自動車関連の誘致」、小林香氏(高29回)は「東北の自然環境」など沢山の方々からテーブル・スピーチを頂きました。更に、橋本司会は今月初めて参加した永井里絵さんら4名の学生に、高校での思い出や将来の希望などを話し、会場は大いに盛り上がりしました。それから全員で校歌を合唱し、千葉正顧問(高1回)の閉会の音頭で「また来年再会する」ことを誓って、散会しました。絆の重要性を実感した懇親交流会でした。

創立百十周年記念誌

頒布のご案内

昨年度、創立百十周年記念事業の一環として、記念誌「福高この十年―創立百十周年―」が刊行されました。

かつて本校は創立八十周年の記念事業として『福高八十年史』を刊行しました。これは本県における学校史の先駆けをなすもので、本校ではこの後、九十周年には『福高九十年の歩み』、百周年には『福高百年史』を刊行し、節目ごとに学校の歴史を振り返るということが定着してまいりました。

【福高この十年―創立百十周年―】は主に平成10年度後半から20年度前半の時期に取材しました。その間本校は15年度から男女共学となり、18年度からはオーストラリアへの修学旅行も実施しました。また教育基本法

改正をはじめ学校を取り巻く社会環境も大きく変化し、本校にも変化の波が及びました。そうした中で福高生が奮闘した軌跡をまとめました。

本記念誌の残部がありますので、希望する方に頒布いたします。次の要領でお申し込みください。

なお本書はB5判、百十二ページです。

宛先 〒960-8002

福島市森合町5-72

福島高等学校同窓会

事務局

希望冊数を明記し、切手を同封してください。

一冊………二九〇円

二〜三冊……三四〇円

平成22年度 一般会計予算書

[21年9月1日～22年8月31日]

1. 収入の部 (単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
(1) 繰越金	4,203,203	
(2) 入会金	957,000	卒業生 (319名×3,000円)
(3) 年会費	3,319,000	卒業生 (319×1,000円)、会員 (約1,500名×2,000円)
(4) 雑収入	797	預金利子等
(5) 繰入金	0	
合 計	8,480,000	

2. 支出の部 (単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
1 事業費	3,880,000	
(1) 総会費	500,000	定期総会開催に関する費用
(2) 会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3) 母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4) 特別事業費	100,000	
2 運営費	1,200,000	
(1) 会議費	350,000	役員会、幹事会
(2) 事務諸費	100,000	振り込み手数料他
(3) 交際費	200,000	各回同期会、饗別、その他
(4) 慶弔費	100,000	
(5) 通信費	250,000	切手、葉書代
(6) 旅費	150,000	関東梅苑会、みやぎ梅苑会出席旅費
(7) 雑費	50,000	
3 梅苑会館運営費	500,000	
(1) 維持管理費	500,000	梅苑会館補修費積み立て
4 会員名簿管理費	850,000	平成21年度分会員名簿管理費
5 予備費	2,050,000	
合 計	8,480,000	

平成22年度 母校後援会費予算書

[21年9月1日～22年8月31日]

1. 収入の部 (単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
(1) 繰越金	5,010,625	
(2) 会費	1,319,000	卒業生 (319名×1,000円)、会員 (約1,000名×1,000円)
(3) 雑収入	375	利子等
合 計	6,330,000	

2. 支出の部

項 目	予 算 額	摘 要
(1) 後援会費	1,200,000	母校への助成
(2) 部活動助成	200,000	全国大会出場の部への激励金
(3) 予備費	4,930,000	利子等
合 計	6,330,000	

平成22年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計(特別会計)

1. 収入の部 (単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
(1) 繰越金	1,000,000	
(2) 積立金	500,000	同窓会一般会計より
(3) 利子	500	
合 計	1,500,500	

2. 支出の部

項 目	予 算 額	摘 要
次期繰越金	1,500,500	
合 計	1,500,500	

平成20年度 一般会計決算書

[20年9月1日～21年8月31日]

収入決算額	9,457,091円
支出決算額	5,253,888円
次年度へ決算額	4,203,203円

1. 収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
(1) 繰越金	5,094,375	5,094,375	
(2) 入会金	942,000	942,000	卒業生 (314名×3,000円)
(3) 年会費	3,314,000	3,336,840	卒業生 (314名×1,000円)、会員 (1,234名)
(4) 雑収入	6,625	83,876	預金利子、七福会より寄附等
(5) 繰入金	0	0	
合 計	9,357,000	9,457,091	

2. 支出の部 (単位：円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
1 事業費	3,850,000	3,058,758	
(1) 総会費	500,000	490,320	定期総会開催に関する費用
(2) 会報費	3,000,000	2,295,638	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3) 母校後援費	250,000	272,800	卒業生証書ホルダー
(4) 特別事業費	100,000	0	
2 運営費	1,200,000	555,130	
(1) 会議費	350,000	254,450	第2、3、1回役員会
(2) 事務諸費	100,000	6,300	振り込み手数料
(3) 交際費	200,000	105,000	関東・みやぎ梅苑会参加費、記念品代
(4) 慶弔費	100,000	0	
(5) 通信費	250,000	93,590	往復葉書、切手
(6) 旅費	150,000	95,790	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7) 雑費	50,000	0	
3 梅苑会館運営費	500,000	500,000	
維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
4 会員名簿管理費	850,000	840,000	平成20年度分会員名簿管理費
5 予備費	2,957,000	300,000	関東梅苑会活動支援
合 計	9,357,000	5,253,888	

平成20年度 母校後援会費決算書

[19年9月1日～20年8月31日]

収入決算額	6,551,110円
支出決算額	1,540,485円
次年度へ決算額	5,010,625円

1. 収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
(1) 繰越金	4,881,806	4,881,806	
(2) 会費	1,314,000	1,666,000	卒業生 (314名×1,000円)、会員 (793名)
(3) 雑収入	4,194	3,304	預金利子
合 計	6,200,000	6,551,110	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	摘 要
(1) 後援会費	4,000,000	890,485	110周年記念事業 (CD作成、会議費)
(2) 部活動助成	100,000	150,000	全国大会出場の部への激励金 (バスケットボール部、陸上、水泳、囲碁将棋、新聞、写真)
(3) 予備費	1,600,000	0	
(4) 梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
合 計	6,200,000	1,540,485	

進学展望

進路希望の動向

平成二十三年三月の卒業生は、本校共学化後、第五期の卒業生となる。共学化以降本校の校風にもさまざまな変化が見られたが、最も顕著な変化は学習に対するより一層の真摯な取り組みの姿勢の現れと進路希望実現に向けての生徒の動向である。共学化以降、学習成績は他校と比較して確実に向上してきており、その成果を進学実績に著実に結びつけてきている。また、大学や学部・学科への志望が、看護学部や保健学科など男子校時代とは異なってきたり、生徒や生徒を取り巻く環境の変化に対応した適切な進路指導が必要となってきた。

具体的な変化としては、社会動向を反映して資格取得を前提とする実学志向が強まり、医学部・薬学部・看護学部および教育学部など将来の職業に直結するような資格を取得する傾向が一層強まった。この数年のこうした動きを受けて、平成二十二年の本校の取り組みとして、二年生を対象とした「医療系学部進学志望者に対する特別指

導」を実施し、同窓生にもさまざまな形で支援をいただいた。かつての男子校時代および共学化前後と比較すると、法学部や工学部が減少し、医学部・看護学部・理学部・保健学科などが増加している。

センター試験

今年も、一月十六日・十七日の二日間にわたって大学入試センター試験が実施された。本校生は全体の九五パーセントを超える三〇九名が出願した。本校にとっての今年の受験会場は福島県立医科大学であったが、交通機関の乱れ等による混乱もなく、また当初心配されていた新型コロナウイルスの感染による追試受験者も出ることなく二日間の日程を無事終了した。センター試験における本校生の成績（カッコ内は昨年度）は、九〇〇点満点で、全体平均では六六・一（六四・七）点、文系六教科七科目型では六二・〇・二（六三・三・〇）点、理系五教科七科目型では六二・〇・三（六五・八・一）点で、最高得点者は

表1 大学合格者数

項	大学等	卒業年			
		平成21年	平成20年	平成19年	平成18年
合 格 者 数	国 立 大 学	61	32	74	43
	北海道	47	34	44	48
	北岩	21	18	16	10
	茨城	12	5	6	9
	筑波	7	4	8	4
	宇都宮	6	10	6	9
	千葉	10	4	11	7
	東京	4	10	8	12
	東北	3	3	0	1
	一橋	0	0	2	0
私 立 大 学	慶応義塾	8	11	8	5
	早稲田	2	7	2	2
	中央	8	2	5	9
	法政	19	28	21	30
	立教	17	18	20	17
	日東	0	1	0	5
	東北	6	15	9	12
	小	178	185	207	212
	大	6	10	13	8
	小	36	34	51	28
就 職	大	39	38	41	24
	小	26	35	42	28
	大	21	28	26	15
	小	10	21	21	11
	大	6	14	22	16
	小	0	3	10	11
	大	214	224	220	256
	小	389	411	447	397
	大	1	0	0	1
	小	2	3	1	0
計		567	660	610	600
就 職		0	0	0	0

表2 入試出願状況

項	大 学 名	出 願 数			
		22 年	21 年	20 年	19 年
国 立 大 学	北海道	11	13	18	7
	北岩	8	7	5	13
	茨城	72	111	69	91
	筑波	18	20	17	16
	宇都宮	85	56	45	43
	千葉	5	7	11	11
	東京	16	26	18	22
	東北	7	12	8	15
	一橋	26	16	26	23
	京大	24	33	27	29
公 立 大 学	立教	7	14	9	22
	東北	6	6	11	4
	一橋	3	0	2	4
	国大	16	4	12	27
	新潟	24	24	28	27
	京大	2	1	8	6
	立教	45	59	78	56
	新潟	61	43	38	34
	立教	1	2	4	1
	新潟	27	9	35	25
私 立 大 学	慶応	12	9	6	8
	早稲田	35	35	27	32
	中央	24	22	19	39
	法政	5	3	12	8
	立教	57	89	74	82
	日東	40	23	37	34
	東北	17	13	29	35
	小	40	52	55	71
	大	77	76	113	124
	小	29	38	29	75
計		211	253	257	243
国 公 立 大 学 計		376	393	421	444
私 立 大 学 計		96	78	61	94
計		614	745	863	593
総 計		1,086	1,216	1,345	1,131

文系の生徒では七八九点、理系の生徒では八七一点（東北六県最高点であった。全国的に二年続けて平均点の大幅ダウンとなったが、とくに「国語」「古文・漢文」「数学Ⅰ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」が難化し、それぞれ平均点を大きく下げる結果となった。

センター試験翌日の自己採点后、生徒は東北地区を中心に全国的な動向を確認しながら、二月五日までに個別学力試験（二次試験）への出願を終えた。

国公立二次試験出願状況

本校生の出願状況については別表のとおりである。なお、出願者数は、現役生徒の前・後期日程と推薦およびAO入試のすべてを含んだ延べ人数である。

今年の特徴としては、センター試験の平均点の大幅ダウンの影響から堅実な出願が増えたことである。東北大学への出願者数が昨年の一一一名から七二名へと大きく減少した。一方で、地元福島大学への出願者数は昨年の五六名から八五名へと増加した。センター試験の結果をみて、東北大学を第一志望と考えていた一部の生徒が、安全志向から福島大学へ志願先を変更したものとみられる。また、

私立大学出願状況

私立大学の出願者数については、センター試験の得点のみで合否を判定するいわゆるセンター利用の入試や、地方会場の設定による受験機会の増加など私大側もさまざまな対策を講じているが、受験人口の減少や国公立大学志向の強まりによって年々減少傾向をたどっている。

「大学全入時代」を目前に控え、一部には募集を停止する大学も現れ、各大学とも受験生の確保だけでなく、大学における教育の質が厳しく問われる生き残りを賭けた競争の時代に突入したといえる。一部の有名難関大学の難易度にはそれほど変化はないが、中堅以下の大学は易化し、最近の私立大学地図はすでに「二極化」した状況となっている。

推薦入試の状況

国公立大学・私立大学ともに推薦入試で優秀な人材を早期に確保する傾向は年々強まっており、大学入試制度は指定校推薦（私立大学のみ）公募推薦・自己推薦・AO（AO）入試など複雑化・多様化している。受験のための学力だけでなく、専門分野に対する興味・関心の程度や高校での特別活動の取り組みの成果などが要求されるようになっていく。

本校では、今年度も多くの生徒がさまざまな推薦入試に挑戦した。国公立大学では地元福島県立医科大学医学部医学科に六名が合格、東北大学にもAO入試で工学部・経済学部・農学部それぞれ一名ずつが合格、また、筑波大学にも理工学群と体育専門学群およ

び情報学群にそれぞれ一名ずつが合格、福島大学人間社会学群人間発達学類には四名が合格、さらにお茶の水女子大学理学部にも一名が合格した。

私立大学では早稲田大学に八名、慶應義塾大学に三名、明治大学と中央大学にそれぞれ二名ずつ合格するなど全体で二七名が推薦により合格している。

入試動向

国公立大学の独立行政法人化や少子化の影響により、大学を取り巻く状況は毎年のようにめまぐるしく変化している。国立大学においてはAO（AO）入試を実施する一方で従来からの後期日程廃止を

打ち出す大学・学部が増えており、長年続いてきた前期・後期のいわゆる分離分割方式の受験システムが崩れ始め、実質的にはかつての旧一期校・二期校当時の格付けが復活するような傾向に動いている。私立大学においても歯止めがかからない少子化の流れの中で、大学の存続を求めてさまざまな経営努力の工夫がなされている。

このような状況の中で、国公立大学・私立大学ともに難関校は依然として高い人気を維持しており、受験生側からみると厳しく選別されるという意味で、今後ますますに高いレベルの実力が要求されることになるだろう。

修学旅行

新型コロナウイルスの影響に伴い、予定していたマレーシア旅行が中止、北海道への3泊4日の旅行となりました。秋晴れの上天気に恵まれた素晴らしい旅行でした。来年度は、関東・関西方面での研修旅行が実施される予定です。



寄贈図書紹介 (平成20年1月～12月)

寄贈年月日	書 名	著 者 名	寄 贈 者 (敬称略)
21.1.23	季刊 東北学 第3-12号	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
〃	季刊 東北学 第15号	東北文化研究センター	福高社会科
〃	汚れちまった悲しみに 中原中也詩集	中原中也	小野謙次 (在校生)
〃	光とともに 自閉症児を抱えて	大江健三郎	加藤節子 (本校司書)
2.13	ケアの本質 他5冊		加藤節子 (本校司書)
3.4	ルポ 高齢者医療	佐藤幹夫	加藤節子 (本校司書)
4.10	日本高校バレー55周年記念誌	全国高等学校体育	
〃	日本高校バレー60周年記念誌	全国高等学校体育	
〃	口語訳道元禪師の典座教訓	菅原昭英・等著	駒澤学園
〃	13歳のハローワーク	村上龍	
4.21	主人公はいない	佐藤裕子	フェリス女学院
〃	「もの」から「知財」の時代へ	平塚三好	東京理科大学
〃	環境汚染で減びないために	坂口謙吾	東京理科大学
〃	よくわかる、おもしろ理科実験	川村康文	東京理科大学
〃	科学を選んだ女性たち		東京理科大学
〃	不動産登記法入門	山野目章夫	山野目章夫 (高校29回卒)
〃	イタリア・わが回想	井関正昭	井関正昭 (中学45回卒)
〃	西遊記一大内壺山の旅日記	大内史之・編	大内史之・編 (高校5回卒)
6.12	擬態の進化	大崎直太	大崎直太 (高校18回卒)
〃	もうひとつの年金 (ブックレット新潟大学)	加藤智章	新潟大学
〃	和英対照仏教聖典		仏教伝道協会
7.3	大塚久雄著作集 1-10	大塚久雄	渡邊陽一
7.30	不動産登記法	山野目章夫	山野目章夫 (高校29回卒)
〃	季刊 東北学 第二十号	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
〃	高校生のための社会学	立教大学社会学部	立教大学
〃	本当にあった話だよ	白梅学園大学	白梅学園大学
〃	壬生の医療文化史	壬生町立歴史民俗資料館	独協医科大学
8.28	100年先の暮らし?	佐藤輝	フェリス女学院大学
〃	中世ヨーロッパの社会観	甚野尚志	甚野尚志 (高校28回卒)
〃	十二世紀ルネサンスの精神	甚野尚志	甚野尚志 (高校28回卒)
〃	Third Generation Early Warning	Kumar Rupasinghe	菅野直和 (高校53回卒)
9.9	奇跡のタッチダウン 他42冊	ジョン・グリシュム	「古本市」用より
10.29	退出ゲーム 他34冊	初野 晴	梅苑祭「古本市」売上金より
11.2	高校生のための東大授業ライブ	東京大学教養部	福高進路指導部
〃	16歳からの東大冒険講座 1-3	東京大学教養部	福高進路指導部
12.18	公益の扉をひらく私の挑戦	東北公益文科大学	福高進路指導部

平成21年度 同窓会事務局員 ○は責任者

氏 名	卒回	係	氏 名	卒回	係
駒田 秀孝	高15	庶 務	大河内孝志	高38	経・録・記録
松浦 健二	高18	総 務	渡辺 洋生	高43	名簿管理
石田 正彦	高30	経・録・記録	菅野 祐智	高44	会報・記念誌
神田 亮一	高32	事務局員	須田 雅人	高51	会計・名簿管理
目々澤光一	高36	会 計	高橋 佑樹	高51	経・録・記録
佐藤 富浩	高36	経・録・記録	富良 謙 健	高53	会計・記念誌
斎藤 実	高37	総務・庶務			

平成20年度 同窓会役員

係	氏 名	卒回	係	氏 名	卒回
会長	今井 吉之	高5	理 事	小松 恭三	高14
副会長	渡邊 又夫	高5	〃	岡崎 勇三郎	高15
〃	今野 健一	高5	〃	今野 金 顕	高15
〃	菅野 泰典	高6	〃	久米 允彦	高16
〃	八巻 完二	高10	〃	富田 建一郎	高16
〃	神津 知男	高10	〃	長谷川 好美	高17
〃	川崎 真二	高11	〃	横山 純	高17
〃	内池 浩	高14	〃	山岸 清	高18
〃	渡邊 健寿	高17	〃	勢島 昇	高18
〃	片平 憲市	高19	〃	野地 陽一	高19
常任理事	佐藤 紀男	高11	〃	佐久間 政文	高19
〃	齋藤 登	高12	〃	本多 純一郎	高19
〃	水 倉 国司	高15	〃	花井 宣明	高20
〃	本多 修二	高20	〃	網代 智 盟	高21
監事	加藤 二郎	高4	〃	佐藤 信雄	高21
〃	鈴木 芳喜	高19	〃	尾形 克彦	高22
理事	斎藤 浩	高6	〃	芳賀 裕	高22
〃	八子 英器	高8	〃	黒澤 信雄	高22
〃	平子 健夫	高9	〃	菅野 日出喜	高23
〃	倉島 忠夫	高9	〃	加藤 典義	高23
〃	羽田 登	高9	〃	村 正 文	高23
〃	角田 征雄	高12	〃	渡辺 久	高25
〃	渡辺 英範	高13	〃	強盗 忠久	高26
〃	磯貝 健郎	高13	〃	土屋 牧雄	高26
〃	三瓶 昌久	高13	〃	八子 直樹	高31
〃	久家 孝夫	高13	〃	鎌木 雄司	高33
〃	林 恭良	高14	〃	吉 成 健二	高33

8	7	6	5	4	3	2	1	組
安尾 和	関根 虎	三浦 美	池田 大	渡邊 舜	鈴木 千			幹 事
齋形 尚	合 翼	之 介	紀 地					
瑞 樹								
美 樹								

平成二十一年度卒業生
同窓会幹事